

【テーマ】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組 ICT環境を生かした指導の工夫

【領域】

ダンス（現代的なリズムのダンス）

1 実施の概要

- (1) 実施環境：体育館（Wi-Fi環境あり）
- (2) 使用機器：タブレット 4人グループで1台
- (3) 活用ソフト：カメラアプリ、
- (4) 対象：入学年次 女子64名

2 実践研究のねらい

- ・ 視覚的に自身の動きとほかの人の動きを比較して、どのように体を使うとよいのかを考えたり、活動したりして、主体的に技能の向上を目指す。
- ・ ICTを使いやすいダンスの単元で、ICTをどのように活用すると実践しやすいのかを研究する。

3 具体的な活用方法

- ・ お手本となる生徒のダンスを事前に撮影、準備して、生徒のタブレットに共有できるようにする。生徒は何度も見直したり、止めたりして自身の練習したいところを確認しながら練習を行う。
- ・ 自身の動きや仲間の動きを撮影し、動画を確認する。グループ内で客観的に課題を見つける。

4 活用の実際 (ICT環境を生かした指導の工夫)

【学習の流れ】

【導入】

リズムアップ
ダイナミックストレッチ
全体練習



【展開】

グループ内練習
動画撮影



【まとめ】

自分の動きを見返し、振り返る。次回の発表に活かす。

【活用場面】 場面：展開

グループ内練習

- ・グループごと撮影された動画を繰り返し見ながら練習を行う。
- ・自分たちの動きを撮影し、見比べる。

【工夫した点】

- ・一斉指導後は自分たちで苦手なところやわからないところを中心に練習できるように各グループに動画を共有した。
- ・共有した動画は前からと後ろからの両方の動画を撮影し、いろいろな生徒の課題に対応できるようにした。

5 参加した生徒の感想等

- ・ 動画を見返したときにダンスは観客から見られていることも気にする必要があると分かった。隊形やバランスなども気にすることができた。
- ・ 教え合いをする際に、動画と比べて確認をしながらできた。振り返った時に「合わせた方が良い」という声が多かったので、変更するなど工夫することができた。

6 成果と課題

【成果】

- ・ 生徒は何度も見直すことができるので、自分の苦手なところや練習したいところのみ見ることができる。
- ・ 自分との違いを見つけ、自ら課題を見つけることができる。
- ・ 他人からどう見えているかが客観的に見つめることができる。

【課題】

- ・ 自分の動きと手本の動きとの違いを見るときに時間がかかる。
- ・ タブレットの通信環境次第では動画の再生や、巻き戻しに時間がかかる。
- ・ 自分の動きの確認をするなら、動画遅延なども合わせながらできるとさらにスムーズにできると思う。